

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマイルスイッチON 津田沼（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育をツールとして五領域（「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」「健康・生活」）に対しての支援がおこないやすい環境。	毎月のテーマに沿った運動を取り入れて、日々の運動を工夫し、子供が飽きないで参加する環境を創っている。	専門性（理学療法士、作業療法士）の高いスタッフを充実する。
2	個別支援計画に沿った支援をおこないやすい環境で、子供たちがスタッフと関わるので子供たちの必要としている能力を伸ばせる。	年齢や必要としている支援内容でクラス分けをしているので個人が必要としている支援を受けることが出来る。	利用児童に合ったクラスを案内するため、場合によっては利用者の希望日程に添えないことがあるので調整をおこないたい。
3	運動療育で体を大きく使い、走れるように教室を広めに設計している。	跳箱、鉄棒、マット、一本橋、大縄跳び、縄跳び、綱引き、ボール、ets…など運動器具が充実している	更に運動器具を充実させて、子供たちにたくさんの経験をしてもらい挑戦し自信を付けてもらいたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフによって支援の技量差がある。	更なる新しいスタッフへの研修や訓練、体育補助の練習。あらゆる条件を想定してのロールプレイング。	新しいスタッフの定着。
2	専門的支援（運動）以外での支援の時間が取りにくい場合がある。	運動に特化しているので座学、創作活動の時間が取るのが難しい。	運動療育に特化していることを保護者の方も認知されているので座学、創作活動などのニーズはあまりないが、今後も運動メニューに工夫をもってそれらの要素を取り入れていきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	スマイルスイッチON 津田沼（放課後等デイサービス）
------	----------------------------

公表日 令和 8 年 3 月 30 日

利用児童数 11人

回収数 7人

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	7					
	2	7					
	3	7					
	4	7					
適切 な 支 援 の 提 供	5	6	1				
	6	7					
	7	7					
	8	7					
	9	7					
	10	7					
	11				3	4	とくになくても問題ないです
保 護 者 へ の 説 明 等	12	7					
	13	7					
	14	2	1	2	2	見学室では保護者同士で情報や意見は 交換できており助けられています	
	15	6	1				
	16	7					
	17	7					
	18	1	2	1	3	見学室では保護者同士で情報や意見は 交換できており助けられています	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3	2		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5		1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	1	1	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				いつもありがとうございます 手厚い支援に感謝しています	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		スマイルスイッチON 津田沼（放課後等デイサービス）				公表日	令和 8 年 3 月 30 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		運動療育メインとしているので体を大きく動かせるように広めのスペースを確保している		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		子供たちの年齢や運動、支援の内容で職員の人数を配置している		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		発達支援室（運動スペース）は見通しが出来るようになっている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日の清掃、除菌をおこなっている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		相談室やロッカールームなど個別の部屋を使用できるようになっている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		毎日のミーティング、振り返り、週刊会議、月会議などで反省会や今後の目標など話し合っている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		集計結果を確認して会議し反省や改善に努めている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		会議で話し合い改善に尽くしている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		今後、第三者評価を考えている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修など積極的に参加するように会社から発信している。参加費は会社負担		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページ上で公表済み		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		半年に一回のモニタリングや、毎回クラスの入替えや送迎時にスタッフと保護者が振り返りを話せる場面がある		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援計画を作る際に各スタッフからケース会議録の作成して、それを参考に支援会議をおこなっている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		毎日のケース記録を残す際に「個別支援記録」を毎回残している		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎回の会議でプログラムを反省し計画している		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月のテーマに合わせ、飽きが無いように運動内容を変えている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		毎日のクラス3回を時間分けて提供している。1クラスごとに年齢や、個別目標を合わせてクラス分けをしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。				
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。					
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		相談支援事業所のサービス担当者会議が開られない場合は電話での対応でおこなっている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	5	保育園、学校訪問など保護者や先生から話があった際におこなっている	医療機関との連携は今のところない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	1	5	保護者や先生から話があった際におこなっている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	4	保護者を通して行うことがある	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	運動支援後に保護者に伝えることがある	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		体験会や契約の際に伝えている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		個別支援計画を作成する前に保護者、利用児童の希望をアンケートに答えて頂いている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		同意して頂きサインをいただいている。また保護者から支援内容に追記して欲しいなど要望がある際には追記したり変更したりして対応している	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	3	見学の際や運動後、電話で相談や支援内容について話し合っている	取って時間を取って定期的に話し合う機会は、ほぼモニタリングの時に限られている
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	2	4	長期休みや、クラスに休みが出た際などを利用して利用児童と兄弟で支援を提供することがある	保護者会等を開催したり交流会はおこなっていない
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		保護者から相談の申し入れがあった場合はすぐに対応できるように心得、対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		LINEグループなども利用して連絡を取れるようにしている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		書類は全て鍵付き書庫に入れて対応している	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	地域住民を招待することはない	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				